

## 第2章 各視聴覚教材の説明

### 1 視聴覚教材の全体像

下の図1は、視聴覚教材の全体像を表したものです。

視聴覚教材は、それぞれ独立していますが、1st教材を2nd教材、2nd教材を3rd教材が補足したり、両方視聴することで理解が深まる効果も期待されます。

1st教材の「1 高次脳機能障害とは」は、高次脳機能障害がどのような障害であるかを各症状ごとに説明したうえで、その対処策を簡単にまとめている教材です。

2nd教材は、職業センターでこれまでに開発し、プログラムの中で実施しているグループワークの内容をまとめた教材です。視聴者（障害者）が自分の特性に対する理解を深めることを目的とし、「2-1 記憶の機能」「2-2 注意の機能」「2-3 感情のマネジメント」があります。

3rd教材は、2nd教材で深めた自分の特性に対する対処等についてまとめた内容で、「3-1 メモの取り方」「3-2 対処手段」「3-3 疲労」「3-4 睡眠」があります。

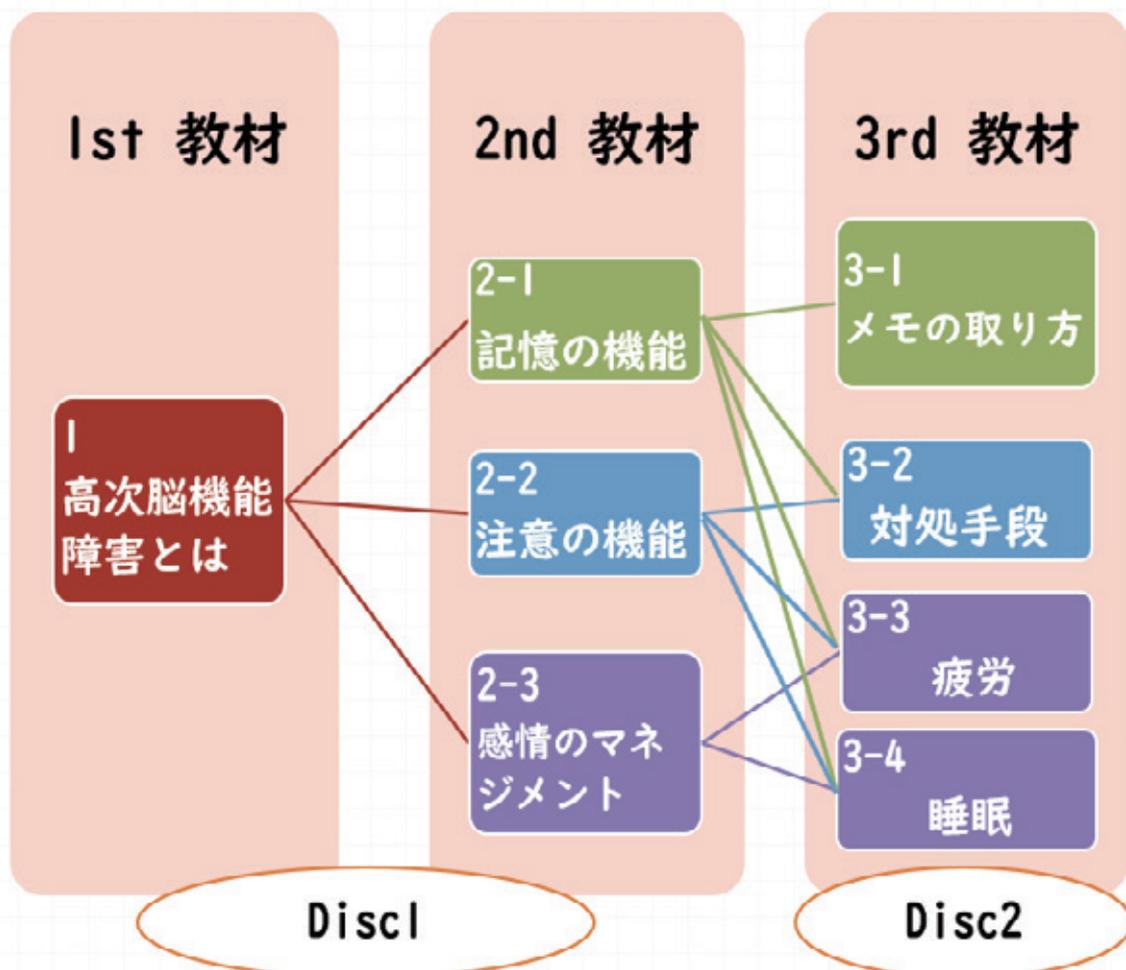


図1 視聴覚教材の全体像

また、図 1 は、教材同士の関連も表しています。

2nd 教材「2-1 記憶の機能」に関連して、記憶を助ける対処を紹介している 3rd 教材は、「3-1 メモの取り方」とアシスティブテクノロジーの活用などの「3-2 対処手段」です。さらに、記憶の機能を発揮させるために重要となる「3-3 疲労」や「3-4 睡眠」も「2-1 記憶の機能」と関連しています。

「2-2 注意の機能」を補う主な 3rd 教材は、「3-2 対処手段」です。また、記憶の機能と同じように、注意の機能を発揮させるには重要となる「3-3 疲労」や「3-4 睡眠」も「2-2 注意の機能」と関連しています。

「2-3 感情のマネジメント」および「3-3 疲労」と「3-4 睡眠」は、実践報告書№33「感情のコントロールに課題を抱える高次脳機能障害者への支援」の内容を分割してまとめたものです。

## 2 視聴覚教材活用にあたっての留意事項

視聴覚教材の内容は、高次脳機能障害者自身が障害特性への理解を深めたり、能力を発揮しやすくするための対処手段を体感できる内容となっています。しかし、高次脳機能障害者が単独で視聴しただけでは、自分自身の状況と照らし合わせて考えることができなかつたり、2nd 教材では、課題の正解・不正解にとらわれて、自分の特性を理解して対処手段を検討することに結びつかない可能性があります。そのため、支援者が一緒に視聴覚教材を視聴することを基本と考えており、対応が難しい場合は、視聴前後に相談やフィードバックする時間を取っていただくことを想定しています。

一緒に視聴できる場合は、適宜視聴覚教材を止めて理解できているか確認しながら進めてください。ただし、「体験」の時間を定めているものに関しては、決められた時間で実施してください。視聴後の振り返りには、視聴者が記入したワークシートを見ながらフィードバックしてください。

各視聴覚教材は 15～30 分程度ですが、途中でワークシートに記入したり、支援者とやり取りしながらグループワーク的に活用した場合には 45～60 分程度で実施できる内容となっています。